

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | |
|--------|---|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／債券 |
| 信託期間 | 無期限(2022年6月30日設定) |
| 運用方針 | 主として先進国債券アルファ戦略 [※] に連動する円建債券(以下「円建債券」といいます。)への投資を通じて、実質的に先進国国債への投資ならびに米国金利に係るスワップ取引を組み合わせることで、投資信託財産の成長を目指します。 ※この投資信託において先進国債券アルファ戦略とは、主に先進国国債へ投資する先進国債券ベータ戦略と米国金利に係る複数のスワップ取引に投資する米国金利ボラティリティ戦略を併せた運用手法をいいます。具体的には、実質的に先進国国債指数に沿ったリターンを達成することを目指す外国投資信託に投資することに加え、米国金利に係る満期日および金利スワップの対象期間の異なる複数のスワップ取引の買い持ちと売り持ちを保有することにより、相場急変時、および平常時双方で収益機会を確保することを目指します。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 |
| 主要投資対象 | 円建債券を主要投資対象とします。 |
| 主な投資制限 | 投資信託証券(上場投資信託証券を除きます。)への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以下とします。 外貨建資産への直接投資は行いません。 株式への直接投資は行いません。 |
| 分配方針 | 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益および売買益(評価損益を含みます。)等の全額とします。 収益分配金額は、委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。 留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。 |

運用報告書(全体版)

楽天・先進国債券アルファ 戦略ファンド(為替ヘッジあり) 〈ラップ向け〉

第2期

決算日：2024年5月15日

受益者の皆様へ

平素は当ファンドにご投資いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、当ファンドは、このたび上記決算を行いましたので、当期間の運用状況につきまして、ご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

楽天投信投資顧問株式会社

<https://www.rakuten-toushin.co.jp/>

東京都港区南青山二丁目6番21号

本資料(運用報告書(全体版))の記載内容のお問い合わせ先

TEL：03-6432-7746

受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで

※お客様のお取引内容等につきましては販売会社にお問い合わせください。

Rakuten 楽天投信投資顧問

■本資料の表記に関する注記

- ・金額等の数値は表記未満切捨または四捨五入により表示しております。このため、各項目の合計の値が合計欄と一致しないことがあります。
- ・－印は、組入・売買が無いことを示します。

設定以来の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | | 公社債 組入比率 | 純資産 総額 |
|---------------------|-------------|-----------|-----------|-------------|-----------|
| | (分配落) | 税込 分配金 | 期中 騰落率 | | |
| (設定日) 2022年6月30日 | 円 10,000 | 円 — | % — | % — | 百万円 1 |
| 1期(2023年5月15日) | 9,794 | 0 | △2.1 | 99.0 | 5,197 |
| 2期(2024年5月15日) | 9,853 | 0 | 0.6 | 99.1 | 3,667 |

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 当ファンドの運用方針に対応する適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

(注3) 設定日の基準価額には当初設定価額を、純資産総額には当初設定元本を用いています。

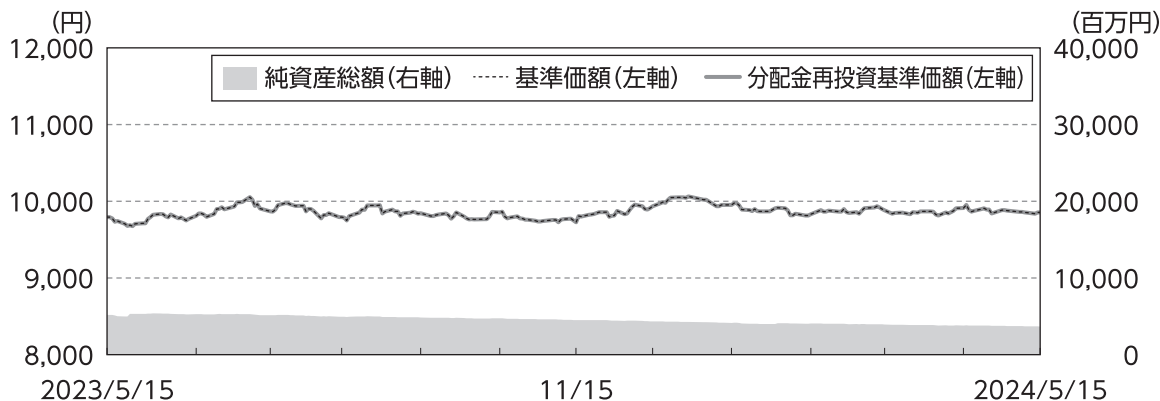
当期中の基準価額の推移

| 年月日 | 基準価額 | | 公社債 組入比率 |
|---------------------|------------|--------|-------------|
| | 騰落率 | 騰落率 | |
| (期首) 2023年 5月15日 | 円 9,794 | % — | % 99.0 |
| 5月末 | 9,770 | △0.2 | 97.6 |
| 6月末 | 9,894 | 1.0 | 98.4 |
| 7月末 | 9,942 | 1.5 | 98.4 |
| 8月末 | 9,842 | 0.5 | 99.0 |
| 9月末 | 9,854 | 0.6 | 99.7 |
| 10月末 | 9,735 | △0.6 | 98.4 |
| 11月末 | 9,814 | 0.2 | 98.6 |
| 12月末 | 10,063 | 2.7 | 98.5 |
| 2024年 1月末 | 9,888 | 1.0 | 99.3 |
| 2月末 | 9,857 | 0.6 | 98.9 |
| 3月末 | 9,868 | 0.8 | 98.3 |
| 4月末 | 9,884 | 0.9 | 98.7 |
| (期末) 2024年 5月15日 | 9,853 | 0.6 | 99.1 |

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

当期中の運用経過と今後の運用方針

■基準価額等の推移



期 首：9,794円

期 末：9,853円(既払分配金0円)

騰落率： 0.6%(分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を起点として指数化しています。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、先進国債券アルファ戦略(先進国債券アルファ戦略とは、主に先進国国債へ投資する「先進国債券ベータ戦略」と米国金利に係る複数のスワップションに投資する「米国金利ボラティリティ戦略」を併せた運用手法をいいます。)に連動する円建債券に投資しますので、当該債券の価格変動が基準価額の主な変動要因となります。更に円建債券の主な価格変動要因は、先進国の国債市場の動向(「先進国債券ベータ戦略」)ならびに米国金利に係るスワップションの買い持ちと売り持ちを組み合わせた戦略(「米国金利ボラティリティ戦略」)からの収益動向となります。

なお、円建債券を通じて実質的に投資する「先進国債券ベータ戦略」においては、戦略内で対円での為替ヘッジが行われます。また、「米国金利ボラティリティ戦略」においては、外貨建資産相当となるのが損益部分のみとなるため、為替変動による影響は限定されます。

当期の基準価額は小幅に上昇しました。

前期に続き、当期も米国をはじめ主要国の金利が上昇し、実質的に投資している債券価格の上値を抑えたほか、日本と米国をはじめとする主要国との金利差が縮小する気配に乏しいなかで為替ヘッジコストも高止まりし、「先進国債券ベータ戦略」からのマイナス寄与が拡大しました。

一方、「米国金利ボラティリティ戦略」においては、米国政策金利の見通しの不透明感を背景に、米国の超長期金利のインプライド・ボラティリティ(スワップションが示す金利スワップの予想変動率)が実際の変動率より高く推移する局面が多く見られ、スワップション売り持ちからの収益が拡大しました。また、長期金利・超長期金利の実際の変動率がインプライド・ボラティリティとともに上昇した局面では、スワップションの買い持ちによる収益が積み上がるなど、当戦略は期を通して損失を抑えつつ、緩やかな上昇基調を保ちました。

これら戦略全体のパフォーマンスとしては、「先進国債券ベータ戦略」からのマイナス寄与を「米国金利ボラティリティ戦略」が埋め合わせる形となりました。

■投資環境

当期の先進国国債市場は、米国を中心に金利上昇圧力が優勢になる局面が目立ちました。

米国では、金融引き締め長期化観測や国債需給悪化懸念などを背景に、期初から長期金利は上昇基調となり、2023年10月には約16年ぶりとなる5%台まで上昇しました。その後、パウエルFRB(米連邦準備制度理事会)議長によるハト派的な(利上げに慎重な)発言や予想を下回る米国の10月雇用統計などを受けた早期利下げ期待の広がりとともに長期金利は一旦低下に転じたものの、2024年に入り、景気の底堅さを示す経済指標やインフレ圧力が根強いことを示す経済指標などが発表され、早期米利下げ観測が後退したことなどから、長期金利は再度上昇する展開となりました。ユーロ圏主要国の長期金利は、期前半はECB(欧州中央銀行)による継続的な利上げや米国の長期金利の上昇などを材料に上昇基調となったものの、インフレの鎮静化や景気鈍化を背景に期後半は低下しました。日本では、日本銀行による金融政策修正観測などから長期金利に上昇圧力がかかり続ける展開となりました。日本銀行は、2023年7月にはYCC(長短金利操作)の柔軟化、2024年3月にはマイナス金利の解除とYCC撤廃など金融政策の修正を実施しました。

スワップション市場では、期初から2023年10月にかけて、FRBが長期間にわたり政策金利を高い水準で保つことへの警戒が熾り続け、長期金利が大きく上昇するなか、市場における金利見通しの不確実性が拡大したことから、米国の長期金利・超長期金利のインプライド・ボラティリティが上昇基調を強めました。その後は、FRBの政策転換(利上げ停止・利下げ開始)への期待が急速に広がり、ボラティリティは低下基調に転じたものの、2024年4月になると早期利下げ期待が大きく後退する過程で、ボラティリティが再度上昇しました。

■当ファンドのポートフォリオ

当ファンドの主要投資対象である、先進国債券アルファ戦略に連動する円建債券への投資割合を高位に維持しました。

■当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

■分配金

運用の基本方針等を勘案し、収益分配は見送らせていただきました。なお、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

●分配原資の内訳

(1万口当たり・税込)

| 項 目 | 第2期 | |
|---------------|-----------------------|--|
| | 2023年5月16日～2024年5月15日 | |
| 当期分配金 (円) | — | |
| (対基準価額比率) (%) | (—) | |
| 当期の収益 (円) | — | |
| 当期の収益以外 (円) | — | |
| 翌期繰越分配対象額 (円) | 2 | |

(注1) 「対基準価額比率」は「当期分配金」の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 「当期の収益」は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、「当期の収益以外」は収益調整金および配準備積立金です。

(注3) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、円未満を四捨五入して表示しているため、合計した額が「当期分配金」と一致しない場合があります。

■今後の運用方針

引き続き先進国債券アルファ戦略に連動する円建債券への投資割合を高位に維持しつつ、投資信託財産の成長を目指して運用を行います。

1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 当期 | | 項 目 の 概 要 |
|-------------|-----------------------|---------|---|
| | 2023年5月16日～2024年5月15日 | | |
| | 金額 | 比率 | |
| (a) 信託報酬 | 74円 | 0.753% | (a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 ※期中の平均基準価額は9,867円です。 |
| (投信会社) | (71) | (0.715) | ・ 委託した資金の運用の対価 |
| (販売会社) | (1) | (0.011) | ・ 購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 |
| (受託会社) | (3) | (0.027) | ・ 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売買委託手数料 | — | — | (b) 売買委託手数料 = $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (c) 有価証券取引税 | — | — | (c) 有価証券取引税 = $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (d) その他費用 | 8 | 0.080 | (d) その他費用 = $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ |
| (保管費用) | (3) | (0.034) | ・ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (監査費用) | (1) | (0.005) | ・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 |
| (印刷費用) | (3) | (0.027) | ・ 印刷費用は、有価証券届出書、目論見書、運用報告書等の作成、印刷および提出等に係る費用 |
| (その他) | (1) | (0.013) | ・ その他は、金銭信託への預入金額に対する手数料、その他投資信託財産の運営にかかる費用等 |
| 合 計 | 82 | 0.833 | |

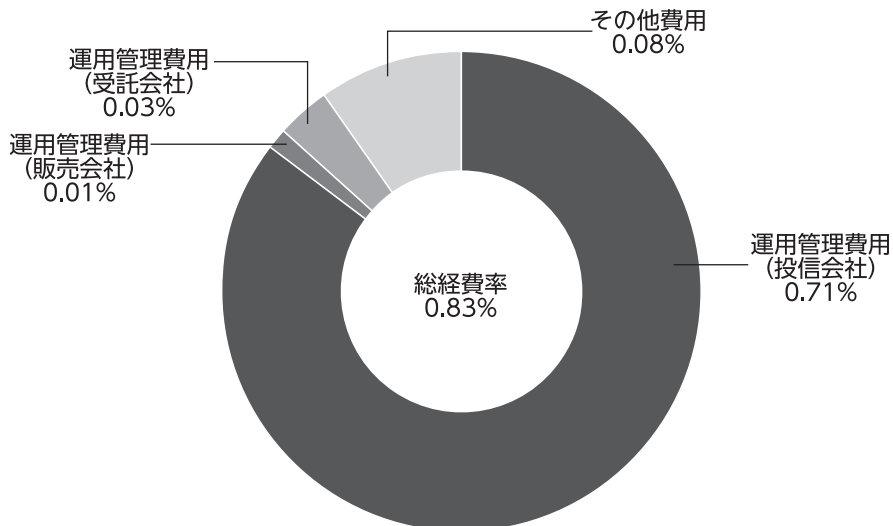
(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■ (参考情報) 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.83%です。



(注1) 各費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況

■ 公社債

| 国 内 | 当 期 | |
|-------|--------------|-----------------|
| | 買 付 額 | 売 付 額 |
| 社 債 券 | 千円 87,534 | 千円 1,657,857 |

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

(注3) 単位未満は切捨て。

利害関係人※との取引状況等

該当事項はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定されている利害関係人です。

自社による当ファンドの設定・解約状況

| 当期首残高 (元 本) | 当 期 設 定 元 本 | 当 期 解 約 元 本 | 当期末残高 (元 本) | 取 引 の 理 由 |
|----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| 百万円 1 | 百万円 — | 百万円 1 | 百万円 — | 当初設定時における取得とその処分 |

(注) 単位未満は切捨て。

組入資産の明細

■ 国内(邦貨建) 公社債種類別

| 区 分 | 当 期 | | | | 未 | | |
|---------------------|--------------------------------|--------------------------------|---------------------|--------------------|-------------------|---------------|---------------------|
| | 額 面 金 額 | 評 価 額 | 組入比率 | うちBB格以下 組 入 比 率 | 残 存 期 間 別 組 入 比 率 | | |
| | | | | | 5年以上 | 2年以上 | 2年未満 |
| 普通社債券 (含む投資法人債券) | 千円 3,670,000 (3,670,000) | 千円 3,636,236 (3,636,236) | % 99.1 (99.1) | % — (—) | % — (—) | % — (—) | % 99.1 (99.1) |
| 合 計 | 3,670,000 (3,670,000) | 3,636,236 (3,636,236) | 99.1 (99.1) | — (—) | — (—) | — (—) | 99.1 (99.1) |

(注1) ()内は非上場債で内書き。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。小数点以下第2位を四捨五入。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

■国内(邦貨建)公社債銘柄別

| 銘柄名 | 当 期 | | 末 | |
|---------------------------------|-----|-----------|-----------|----------|
| | 年利率 | 額面金額 | 評 価 額 | 償還年月日 |
| 普通社債券(含む投資法人債券) | % | 千円 | 千円 | |
| STAR Helios USDスワップション 08/07/24 | 0 | 3,670,000 | 3,636,236 | 2024/8/7 |
| 合 計 | | 3,670,000 | 3,636,236 | |

(注) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成

| 項 目 | 当 期 | | 末 |
|------------|-----------|-----|-------|
| | 評 価 額 | 比 率 | |
| 公 社 債 | 千円 | | % |
| 短期金融資産、その他 | 87,431 | | 2.3 |
| 投資信託財産総額 | 3,723,667 | | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本及び基準価額の状況ならびに損益の状況

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2024年5月15日現在)

| 項 目 | 当 期 末 |
|--------------------|----------------|
| (A) 資 産 | 3,723,667,088円 |
| コール・ローン等 | 84,421,158 |
| 公社債(評価額) | 3,636,236,000 |
| 未 収 利 息 | 23 |
| その他未収収益 | 3,009,907 |
| (B) 負 債 | 56,163,352 |
| 未 払 解 約 金 | 39,737,122 |
| 未 払 信 託 報 酬 | 15,233,622 |
| その他未払費用 | 1,192,608 |
| (C) 純 資 産 総 額(A-B) | 3,667,503,736 |
| 元 本 | 3,722,251,005 |
| 次 期 繰 越 損 益 金 | △54,747,269 |
| (D) 受 益 権 総 口 数 | 3,722,251,005口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 9,853円 |

(注) 期首元本額 5,306,903,725円
 期中追加設定元本額 577,238,186円
 期中一部解約元本額 2,161,890,906円

■損益の状況

(自2023年5月16日 至2024年5月15日)

| 項 目 | 当 期 |
|----------------------|--------------|
| (A) 配 当 等 収 益 | 2,944,431円 |
| 受 取 利 息 | 523 |
| そ の 他 収 益 金 | 3,009,907 |
| 支 払 利 息 | △65,999 |
| (B) 有 価 証 券 売 買 損 益 | 56,230,464 |
| 売 買 損 益 | 66,325,512 |
| 売 買 損 益 | △10,095,048 |
| (C) 信 託 報 酬 等 | △37,752,873 |
| (D) 当 期 損 益 金(A+B+C) | 21,422,022 |
| (E) 前 期 繰 越 損 益 金 | △97,072,753 |
| (F) 追 加 信 託 差 損 益 金 | 20,903,462 |
| (配 当 等 相 当 額) | (△171,583) |
| (売 買 損 益 相 当 額) | (21,075,045) |
| (G) 計 (D+E+F) | △54,747,269 |
| (H) 収 益 分 配 金 | 0 |
| 次 期 繰 越 損 益 金(G+H) | △54,747,269 |
| 追 加 信 託 差 損 益 金 | 20,903,462 |
| (配 当 等 相 当 額) | (△171,583) |
| (売 買 損 益 相 当 額) | (21,075,045) |
| 分 配 準 備 積 立 金 | 1,064,338 |
| 繰 越 損 益 金 | △76,715,069 |

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価替えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

<分配金の計算過程>

| 項 目 | 当 期 |
|---|----------------|
| (A)配当等収益額 (費用控除後) | 1,064,338円 |
| (B)有価証券売買等損益額 (費用控除後・繰越欠損金補填後) | －円 |
| (C)収益調整金額 | －円 |
| (D)分配準備積立金額 | －円 |
| (E)分配対象収益額 (A+B+C+D) | 1,064,338円 |
| (F)期末残存口数 | 3,722,251,005口 |
| (G)収益分配対象額 (1万口当たり) (E / F × 10,000) | 2.85円 |
| (H)分配金額 (1万口当たり) | －円 |
| (I)収益分配金金額 (F × H / 10,000) | －円 |

お知らせ

該当事項はありません。